



くれよん 5月号 うみぐみ



うみ組に進級してから2ヶ月が経ち、新しい環境にも慣れ子ども達も見通しをもって動けるようになってきました。好きな遊びに夢中になったり、友達と遊んだり、思い思いに過ごしています。汗ばむ日も増えてきましたので、子ども達の健康状態に気を付けながら、過ごしていきたいと思ひます。



春ならではの遊び



園庭に行くと、蟻やてんとう虫、だんご虫などいろいろな虫が遊びにくるようになってきました。子ども達はそんな自然の変化にとっても敏感。虫がいた場所や蟻の巣がある場所をよく覚えていて、毎日のように観察しています。そして見たり、つかまえるだけでなく、「なぜ」「どうして」という質問が次々と出てきます。「蟻さんのおうちにはお母さんがいるのかな?」「寝るところはどこにあるのかな?」など、知識を得たいという欲求とともに、いろいろな想像を膨らませているようです。子ども達の興味関心がさらに広がるよう、室内の絵本コーナーに蟻やだんご虫の図鑑を設置しました。すると、本を見ながら、「だんご虫は触ると丸まるんだ」「ありさんは、土の中にたくさん卵を産むんだね」など子ども同士の会話も弾んでいます。他にも、お花や草木にも興味を持ち始めています。年長さんの花壇を毎日のように見て、お花の名前を聞いたり、花びらの違いなどに気づいたりしていました。そんな姿を見ていた年長さんが、花壇の半分を貸してくれたので、さっそく「ネモフィラ」の種をまきました。「どんな花かな?」「明日には咲くのかな?」と子ども達は、蒔いた種からお花が咲くのを心待ちにしているようです。春の自然と触れながら、いろいろな事に興味を持ち学んでいるうみ組です。



ホールでの集団遊び



先日の保護者会でお話をしましたが、週に2回ほどホールで集団遊びをする時間を設けています。ホールへ行くと、みんなで一つの遊びを楽しむという見通しがもてるようになってきたので、「今日は何するのか?」とワクワクしながら待っています。今はしっぽ取りゲームや、「あぶくたつた」というわらべ歌など簡単な鬼ごっこが大好きで、繰り返し遊んでいます。

うみ組の集団遊びのご紹介

しっぽ取り ➡ ズボンにしっぽの先を入れ逃げます。オニにしっぽを取られなかった子が勝ち。

鬼ごっこ ➡ オニにタッチされたら枠の外へ。最後までタッチされない子が勝ち。

(あぶくたつたも鬼ごっこと同じルールです。言葉の掛け合いをした後に鬼ごっこが始まるわらべ歌遊びです。)

始める前に集団遊びのルールをわかりやすく説明します。今は鬼ごっこを中心に行っているのですが、オニが決まったら集団遊びのスタート。子どもたちは、オニにタッチされないよう、無我夢中で逃げています。夢中になり過ぎて、タッチされても逃げ続けたり、タッチされると悔しくて泣いてしまったりすることが、時々あります。そんなときは、子ども達に「鬼にタッチされたら、どこに座るのかな?」とルールを子どもたちに聞いて確認したり、「鬼にタッチされたら悔しいよね」と子どもの気持ちに寄り添いながら、次はどうしたらいいかを一緒に考えたりして行きました。それを繰り返すことで、子ども達は一生懸命に考え、「鬼にタッチされたら、床に座る。」「タッチされても次、頑張れば大丈夫!」など、少しずつ、ルールを守って遊ぶことを意識するようになり、それと同時に悔しくて気持ち切り替え、友だち同士で励まし合ったりする姿もみられるようになっていきました。今では、ホールで集団遊びをして、勝ち負けを楽しめるようにまで急成長しています。そして、オニにタッチされないよう、「もう走れない」と座り込むほど夢中になって走っています。でもその表情はとっても満足そう!!きっと子どもたちなりに頑張ったという達成感を感じているのだと思ひます。

このように、集団遊びを通して「ルールのある遊びの楽しさ」を感じることができたうみ組の子ども達は、ホールだけでは物足りないようです。園庭に出ると、「鬼ごっこする人!」と子ども同士で、声を掛け合って楽しむ姿が多々見られ